

足利将軍の守り神を祭る 内島見観音堂！

内島見の地は、1595（文禄4）年に上杉家の検地により、島見村と名付けられています。観音堂は、昔から観世音菩薩の神聖な区域として知られ、近在の人々により厚く信仰されています。

1710（宝永7）年に新しいお堂が建てられ、新発田の豪族 岩村忠左衛門成郷の寄付により聖（正）観世音菩薩がまつられました。いわれによると、この霊像は弘法大師（空海774～835）の作といわれ、室町幕府4代将軍の足利義持（1386～1428）の守護仏として兜の中に取められていたといわれています。そして、岩村の先祖が軍功によりその兜を拝領し、代々尊崇してきたと伝えられています。村人の切望により、この地に迎えられました。

1730（享保15）年、阿賀野市水原の長楽寺17世 如霖道実は、ここを蒲原33観音霊場札所の第28番札所として定めています。

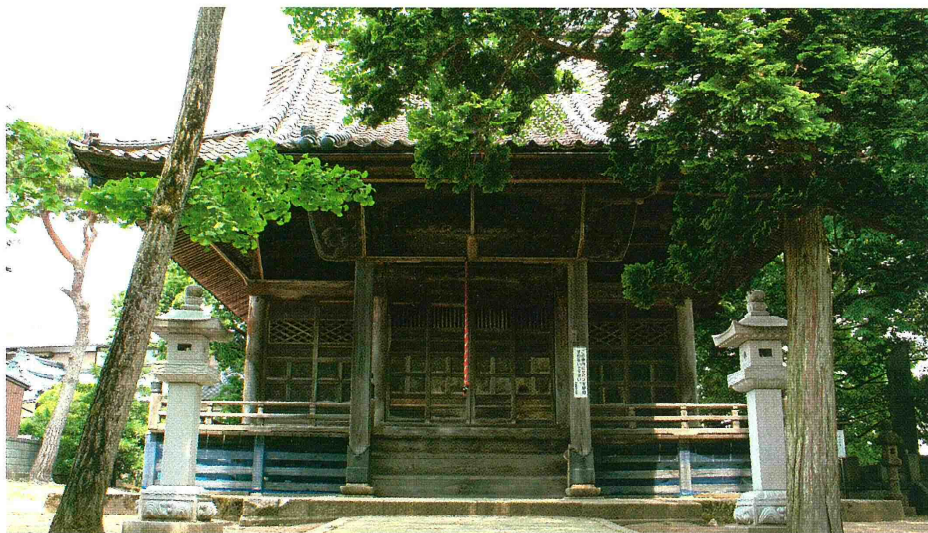
お堂はたびたび改築が行われ、現在のものは1865（元治2）年に再建されたものです。



仁王堂

また、仁王堂は、1901（明治34）年に建立した山門形式のお堂です。一对の仁王像は新発田市田員の二王子神社に安置されていたもので、1872（明治5）年に新発田町の二王子講中よりもらい受けたものです。

観音堂も仁王堂も、それぞれ建築当時の姿をとどめていることから、2007（平成19）年に国の登録有形文化財となりました。



観音堂